

（仮称）野洲市こども計画の策定について

＜令和8年度 第1回 野洲市子育て支援会議＞
令和8年6月22日（月）
野洲市健康福祉部 こども家庭局 こども課

本日の説明内容

1. こども計画の概要

- ・こども計画の位置づけ
- ・計画期間・策定スケジュール

2. 基礎調査の概要

- ・調査の目的と方法
- ・アンケート回収状況

3. 基礎調査結果

- ① 子どもの貧困の影響
- ② 子どもの意識に影響する要因
- ③ 子どもの居場所
- ④ ひきこもりの現状

4. まとめ・今後の論点

本日は、基礎調査結果の
ポイントを中心に説明します。

1. こども計画の概要 <こども計画の位置づけ>

- 市町村は、国のこども大綱と県こども計画を勘案し、市町村こども計画の作成に努めることとされています。
- 野洲市では、関連する既存計画を含め、一体的な計画として整理します。

こども大綱に
規定された事項
(必須)

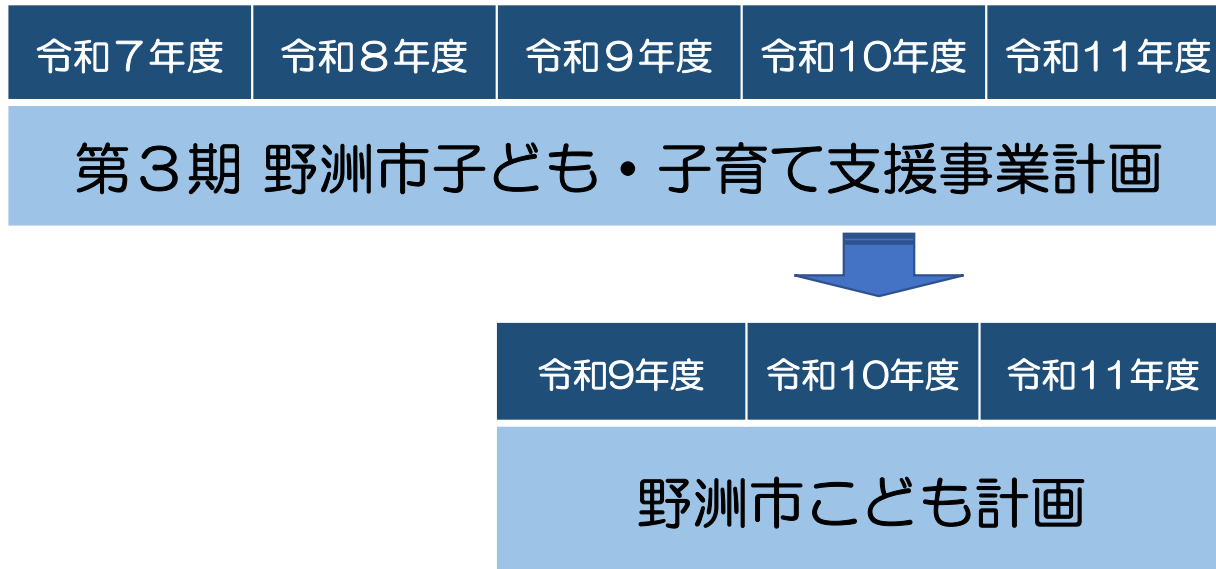
●一体的に策定する関連計画等

- (新) 子ども・若者育成支援に関する計画
- (新) 子どもの貧困対策に関する計画
- (新) 少子化対策に関する施策
- (新) 成育医療等に関する計画 (母子保健計画)
- (既) 子ども・子育て支援事業計画
- (既) 次世代育成支援行動計画

こども施策を分野横断で整理し、市として一体的に推進する計画です。

1. こども計画の概要 <計画期間・策定スケジュール>

<計画期間>



既存の「子ども・子育て支援事業計画」を包含

<策定スケジュール>

【令和7年度】

- ・ 基礎調査
- ・ アンケート・ヒアリング
- ・ 現状把握と課題整理

【令和8年度】

- ・ 分析結果の整理
- ・ 骨子案・素案の作成
- ・ パブリックコメント
- ・ 計画策定

既存の子ども・子育て支援事業計画の終期に合わせ、計画期間を3年間とします。

2. 基礎調査の概要 <調査の目的と内容>

■調査の目的

こども計画の策定に向け、子ども・保護者・若者の生活実態や課題を把握し、今後の施策検討の基礎資料とするものです。

■基礎調査の内容

1. アンケート調査

市内在住の子どもとその保護者、若者を対象に実施

2. グループインタビュー

中学生を対象に、調査結果の背景や実感を把握

3. 関係団体等へのヒアリング

関係課、関係団体、保護者等から現状や課題を聴取

量的調査と質的調査を組み合わせ、状況を多面的に把握しました。

2. 基礎調査の概要 <アンケートの回収状況>

配付対象	配付数	回収数・回収率	
小学5年生 及びその保護者	470票 (全数)	小学生 387票 回収率82.3% 保護者 257票 回収率54.7%	
中学2年生 及びその保護者	456票 (全数)	中学生 403票 回収率88.4% 保護者 213票 回収率46.7%	
高校2年生世代 及びその保護者	525票 (全数)	高校生 193票 回収率36.8% 保護者 210票 回収率40.0%	
若者(19～39歳)	1,500票 (抽出)	457票 回収率30.5%	

※小学生・中学生・高校生は、それぞれ保護者とペアで調査票を配付
 ※小学生・中学生は学校経由での配付。高校生・若者は郵送配付

小・中学生では高い回収率を確保し、若者層からも一定数の回答を得ました。

3. 基礎調査結果

< 基礎調査結果の全体像 >

本調査では、次の4つの視点から分析を行いました。

1. 子どもの貧困の影響
2. 子どもの意識に影響する要因
3. 子どもの居場所
4. ひきこもりの現状

以降、計画策定に特に関係するポイントを中心に説明します。

3. ①子どもの貧困の影響

<まとめ>

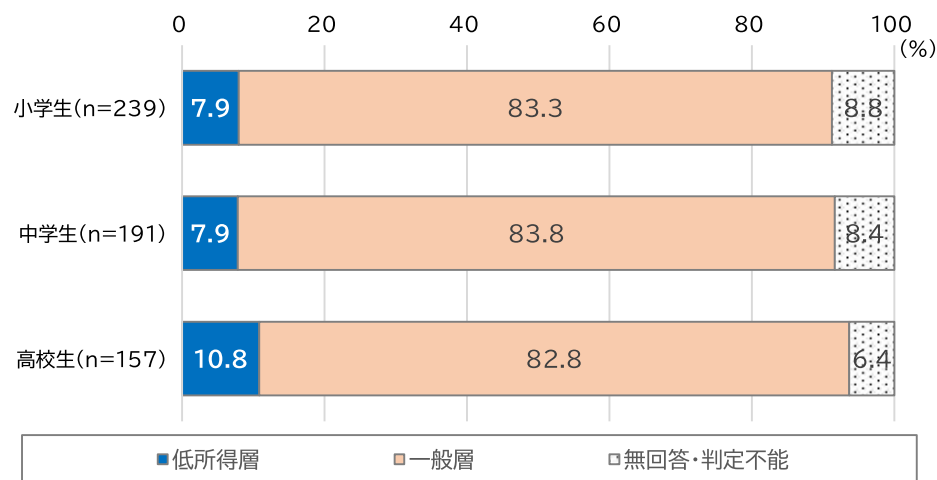
- 低所得層の割合は全国指標より低い一方で、生活が苦しいと感じる層はそれを上回る
- 小・中学生では、経済状況によって授業理解や学習方法に差がみられる
- 小学生・高校生世代では、自己認識や幸福感にも差がみられる
- 課外活動、保護者との会話、生活リズムなど、経済状況の違いは生活全般に影響している

経済的な困難は、学習・生活習慣・心理面などに複合的な影響を与えています。

3. ①子どもの貧困の影響 <経済状況の現状>

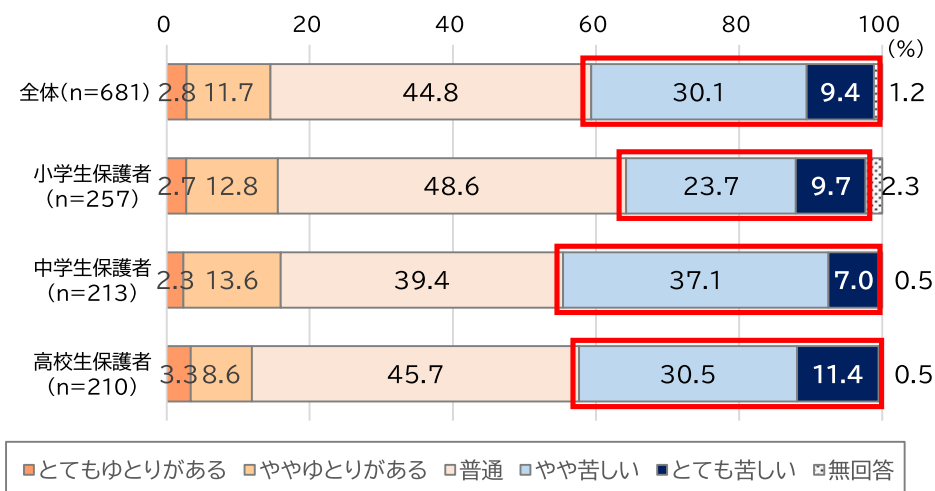
- 国の子どもの貧困率の算出方法に基づき本市の回答状況を整理したところ、低所得層の割合は全国指標より低い水準でした。
- 一方で、主観的な暮らし向きでは、生活が苦しいと感じる割合が低所得層割合を上回る状況でした。

■回答者の経済状況



※本調査に親子ペアで回答した人のみを対象としている。

■暮らし向き(主観的な経済状況)

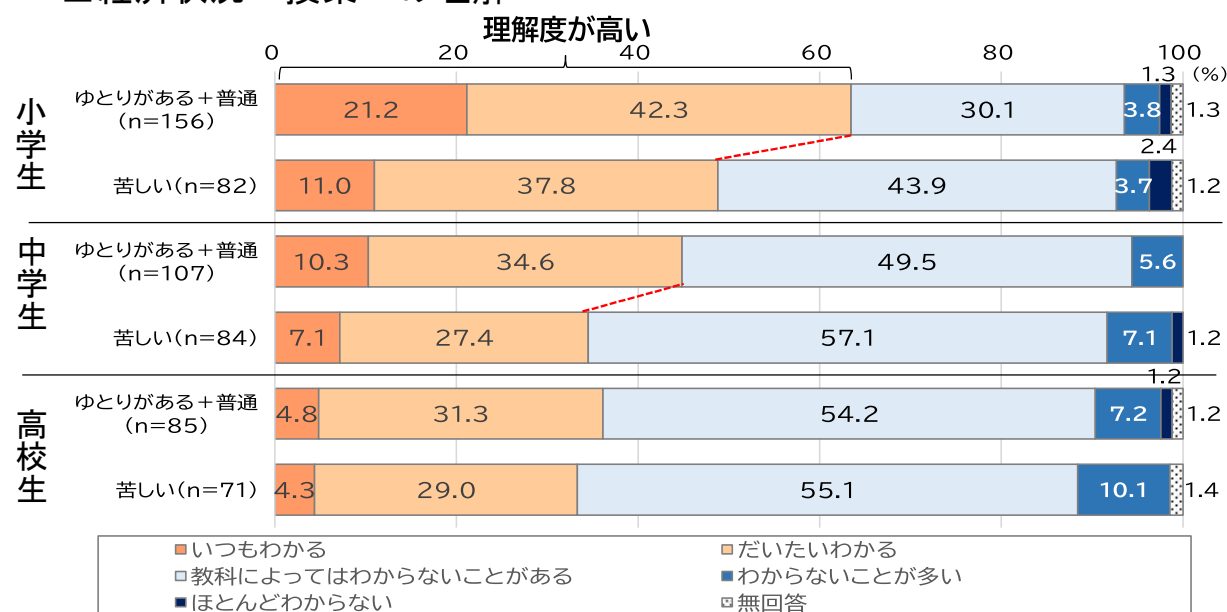


「主観的な生活苦」は、低所得層割合を上回っています。

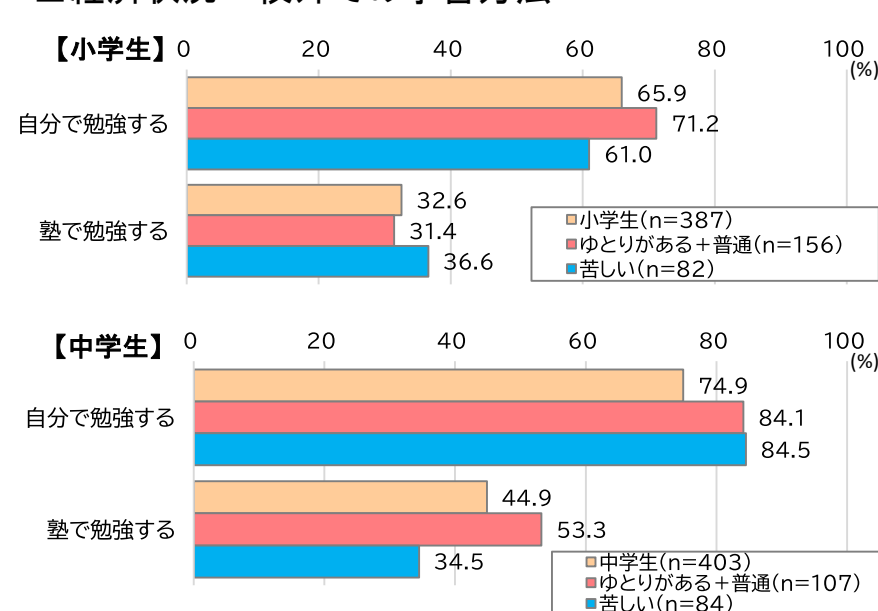
3. ①子どもの貧困の影響 <学力への影響>

- 小・中学生では、経済状況にゆとりがある子どもの方が、授業理解が高い傾向がみられます。
- 学校外での学習方法にも差がみられ、小学生では「自分で勉強する」、中学生では「塾で勉強する」に違いがみられます。

■経済状況 × 授業への理解



■経済状況 × 校外での学習方法



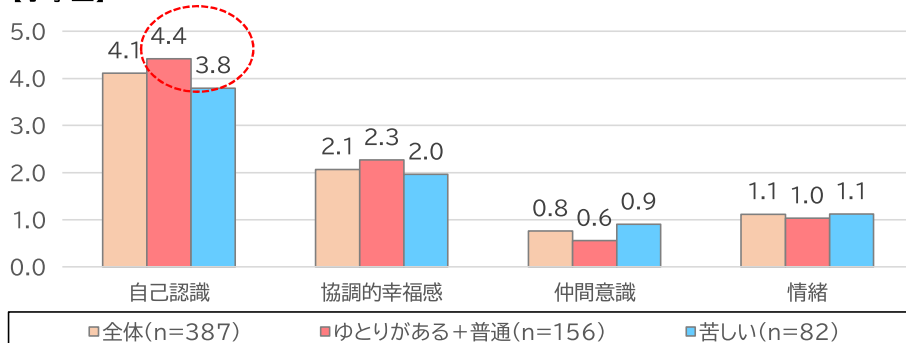
学習環境へのアクセスの差が、授業理解の差につながる可能性があります。

3. ①子どもの貧困の影響 <意識・幸福感への影響>

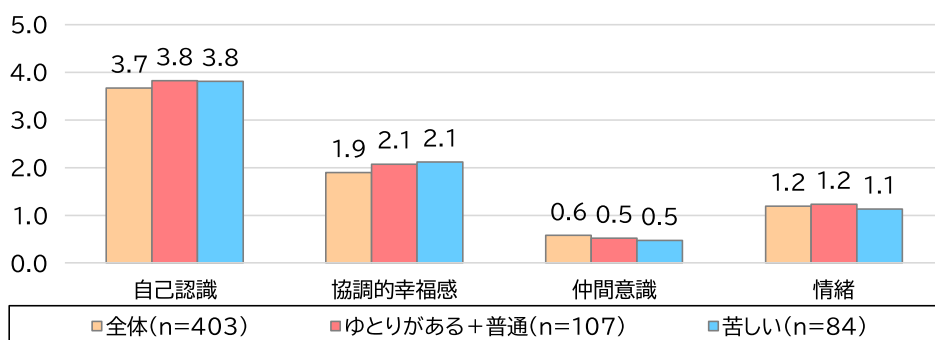
- 小学生では自己認識に、高校生世代では自己認識・協調的幸福感に、経済状況による差がみられます。
- 中学生では明確な差はみられませんでした。

■経済状況 × 自己認識等

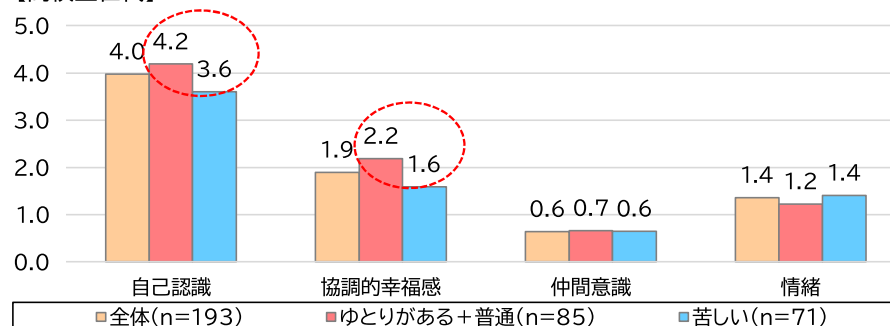
【小学生】



【中学生】



【高校生世代】

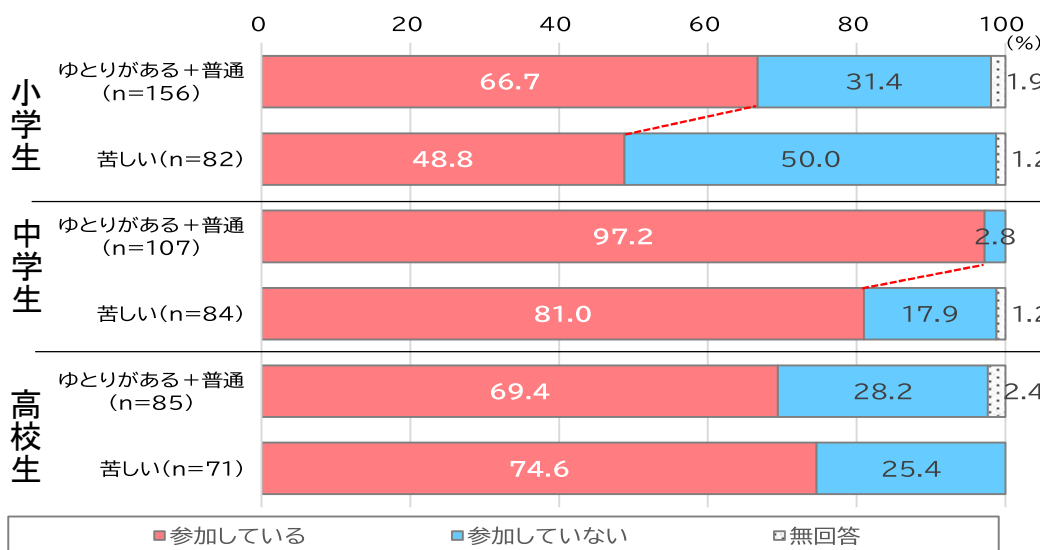


経済状況の違いは、学力面だけでなく、自己認識や幸福感にも影響しています。

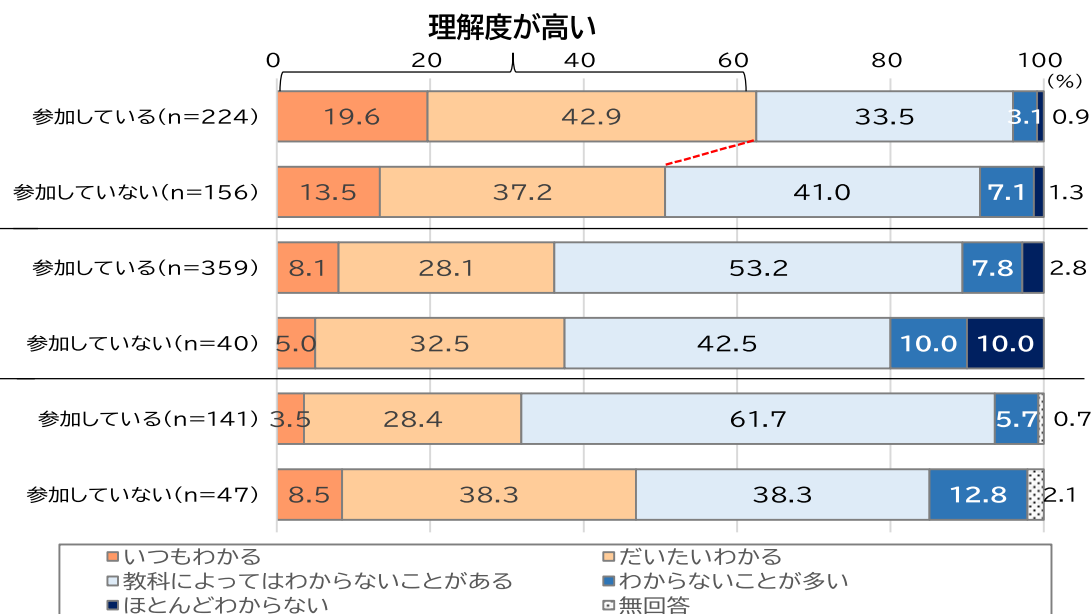
3. ①子どもの貧困の影響 <課外活動への影響>

- 小・中学生では、経済状況にゆとりがある子どもの方が、課外活動への参加率が高い傾向がみられます。
- 特に小学生では、課外活動に参加している子どもの方が、授業理解が高い傾向がみられます。

■経済状況×課外活動への参加



■課外活動への参加×授業への理解

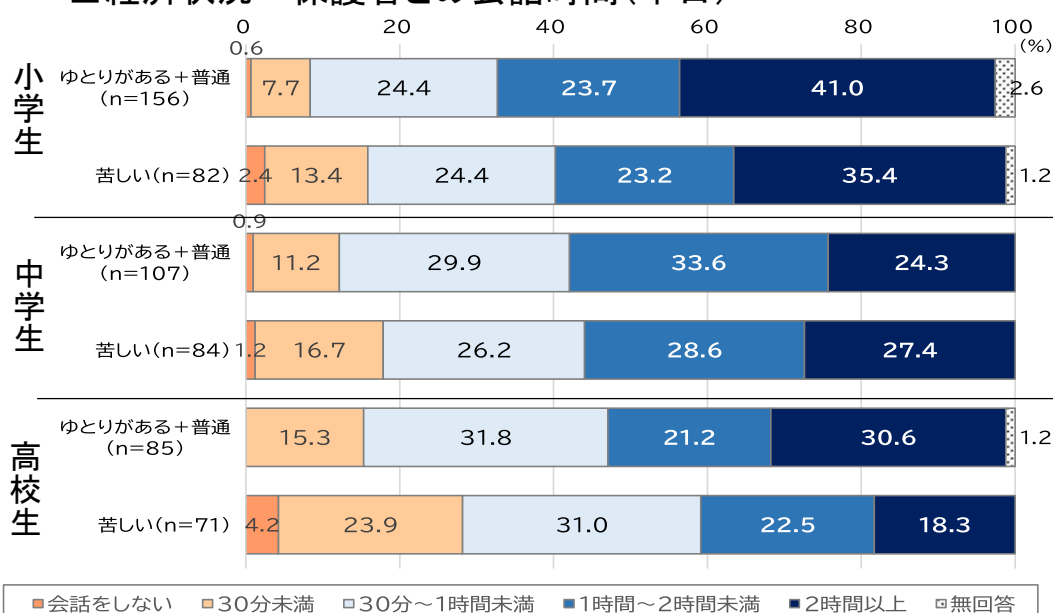


課外活動への参加機会の差が、学びの差につながる可能性があります。

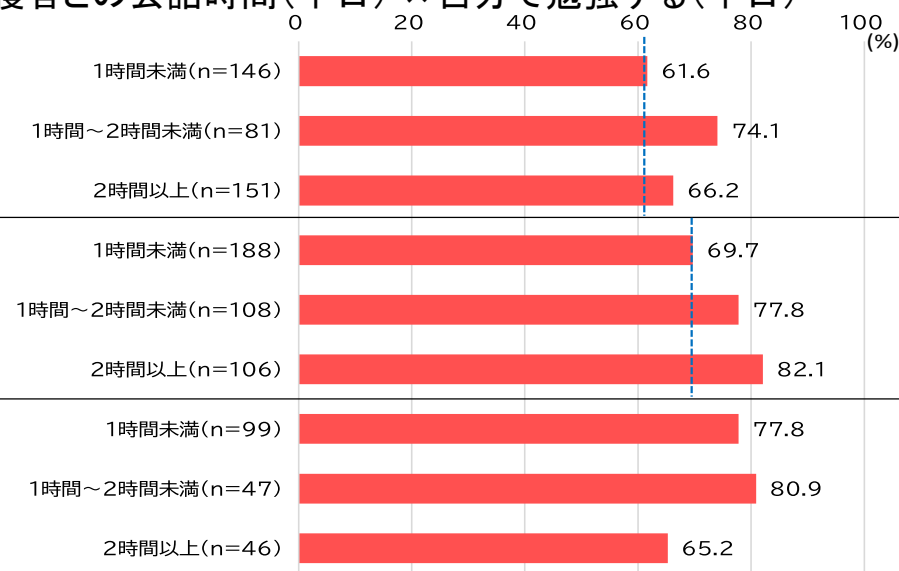
3. ①子どもの貧困の影響 <保護者との会話時間>

- 小学生・高校生世代では、経済状況にゆとりがある子どもの方が、保護者との会話時間が長い傾向がみられます。
- 小・中学生では、保護者との会話時間が短い子どもの方が、自分で勉強する割合が低い傾向がみられます。

■経済状況 × 保護者との会話時間(平日)



■保護者との会話時間(平日) × 自分で勉強する(平日)

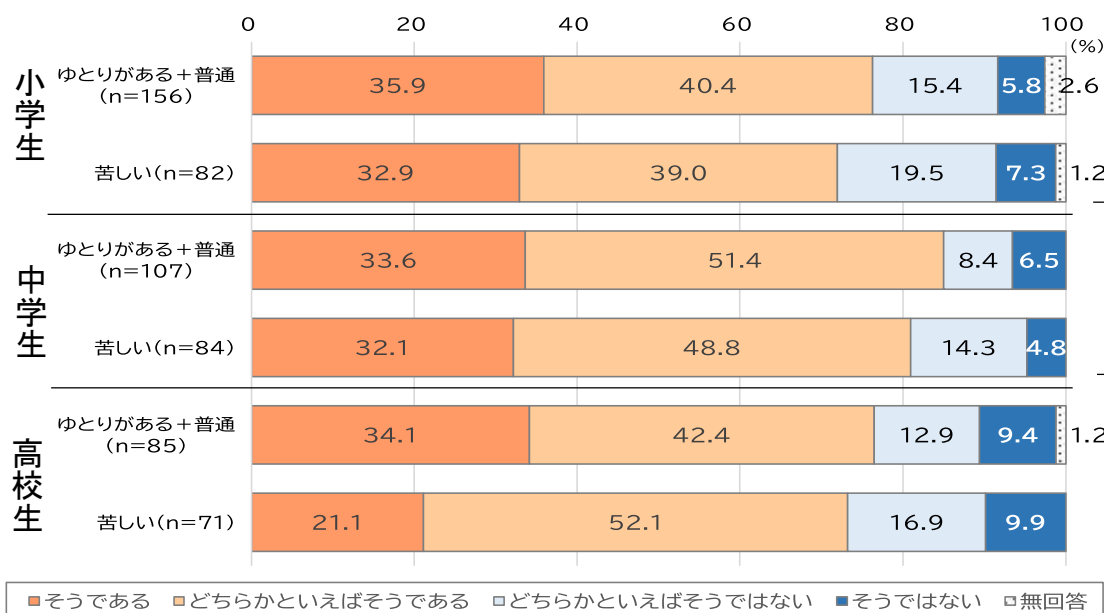


家庭での関わりの差が、学習習慣にも影響している可能性があります。

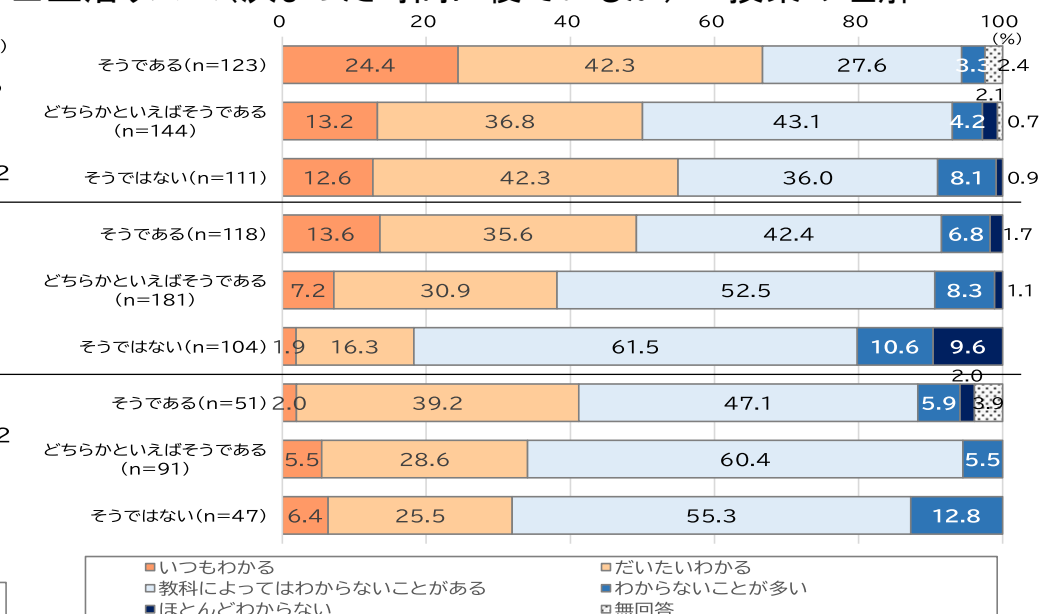
3. ①子どもの貧困の影響 <生活リズム>

- 経済状況にゆとりがある子どもの方が、決まった時間に寝ている割合が高い傾向がみられます。
- 特に中学生・高校生世代では、生活リズムがよいほど、授業理解が高い傾向がみられます。

■経済状況 × 生活リズム(決まった時間に寝ているか)



■生活リズム(決まった時間に寝ているか) × 授業の理解



家庭での関わりの差が、学習習慣にも影響している可能性があります。

3. ②子どもの意識に影響する要因

<まとめ>

- 保護者との会話時間は、自己認識を高める傾向があります。
- 周囲の大人や学校から、意見を聴いてもらえている実感が、自己認識や協調的幸福感を高めています。
- 特に小・中学生では、学校よりも周囲の大人からの意見聴取の影響が大きくなっています。
- インターネットの長時間利用は、自己肯定感の低下と関連しています。

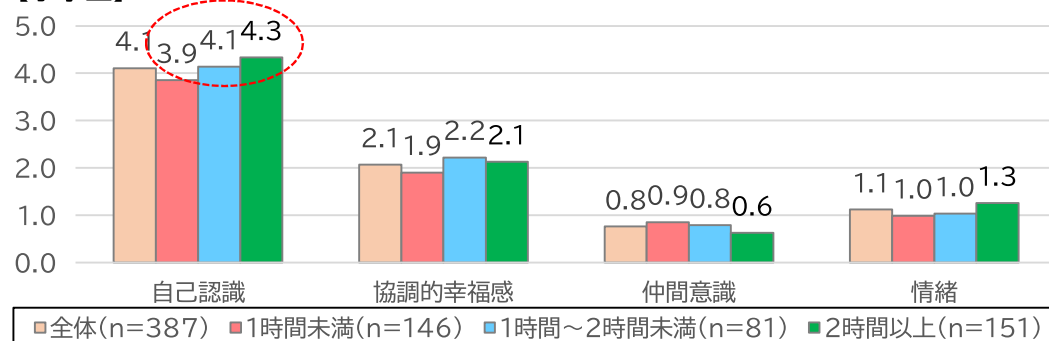
家庭や周囲の大人との関係、意見表明の機会が、子どもの意識に大きく関わっています。

3. ②子どもの意識に影響する要因 <保護者との会話時間>

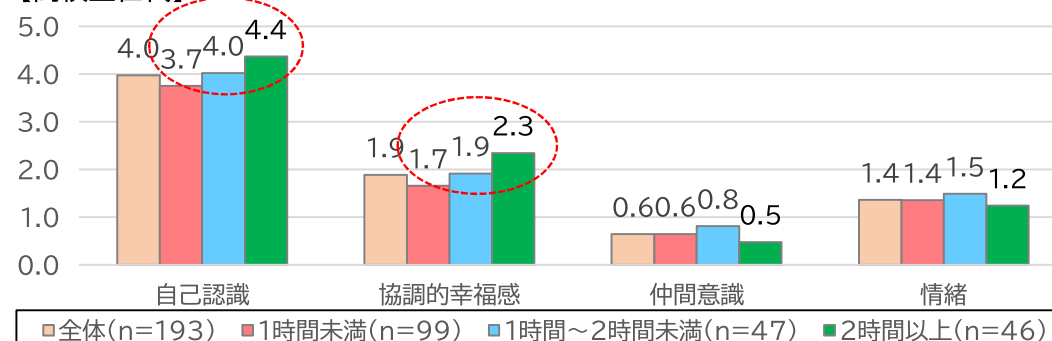
- 保護者との会話時間が長いほど、全世代において自己認識が高い傾向がみられます。
- 保護者との関係性が、自己肯定感等を支えていると考えられます。

■保護者との会話時間×自己認識等

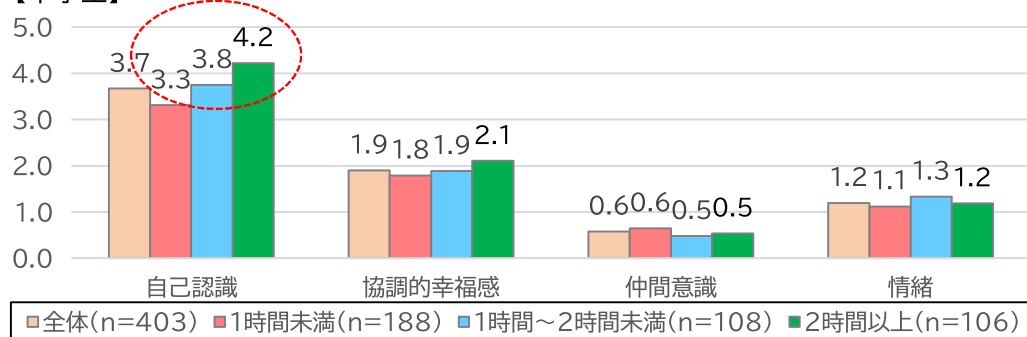
【小学生】



【高校生世代】



【中学生】



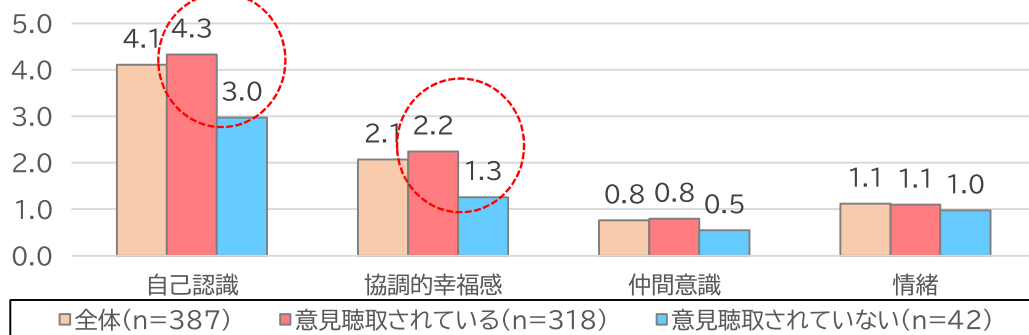
日常的な会話の積み重ねが、子どもの自己認識を支える基盤となっています。

3. ②子どもの意識に影響する要因 <大人からの意見聴取>

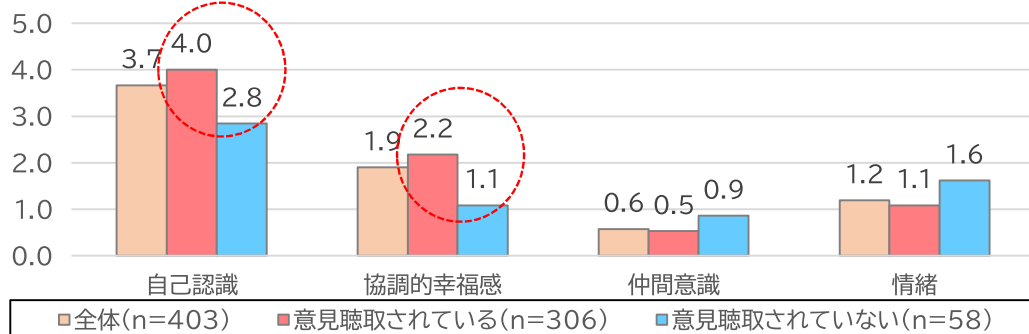
- 周囲の大人から意見を聴いてもらえている実感は、全世代において自己認識や協調的幸福感の向上に関係しています。
- 特に小・中学生では、その影響が大きくなっています。

■大人からの意見聴取×自己認識等

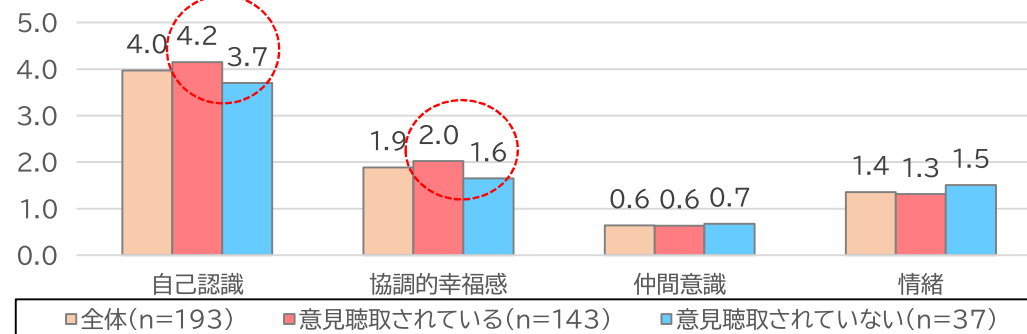
【小学生】



【中学生】



【高校生世代】



中学生インタビューでの意見(要約)

- 悩みは「解決」より、まず聴いてほしい
- 年齢が上がるほど相談しにくくなる
- 非対面型の相談窓口もあるとよい

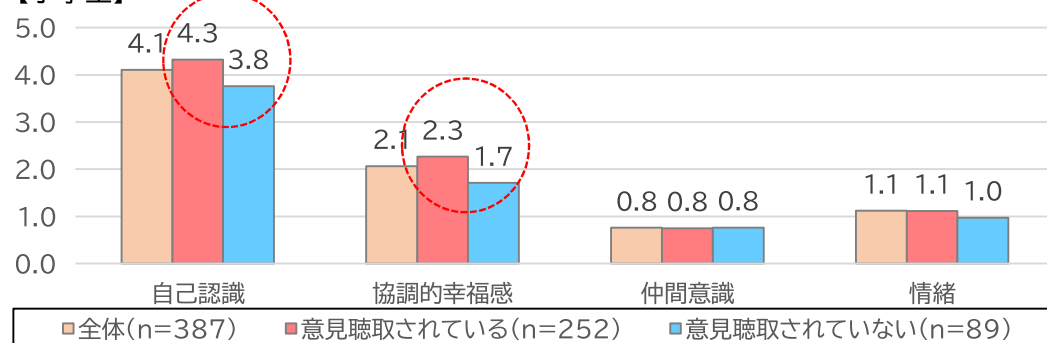
子どもの意見を受け止める大人の存在が、
安心感と自己認識の向上につながります。

3. ②子どもの意識に影響する要因 <学校からの意見聴取>

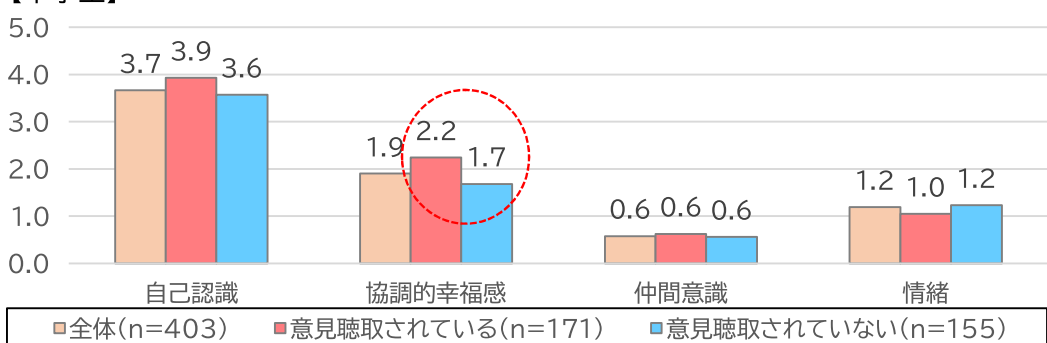
- 学校から意見を聴いてもらえている実感も、小学生の自己認識・協調的幸福感、中学生の協調的幸福感に関係しています。
- 一方で、その影響は周囲の大人からの意見聴取より小さい傾向があります。

■学校からの意見聴取×自己認識等

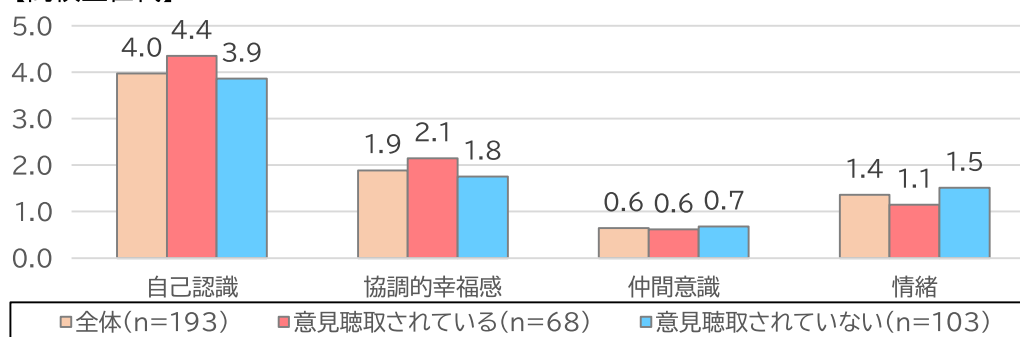
【小学生】



【中学生】



【高校生世代】



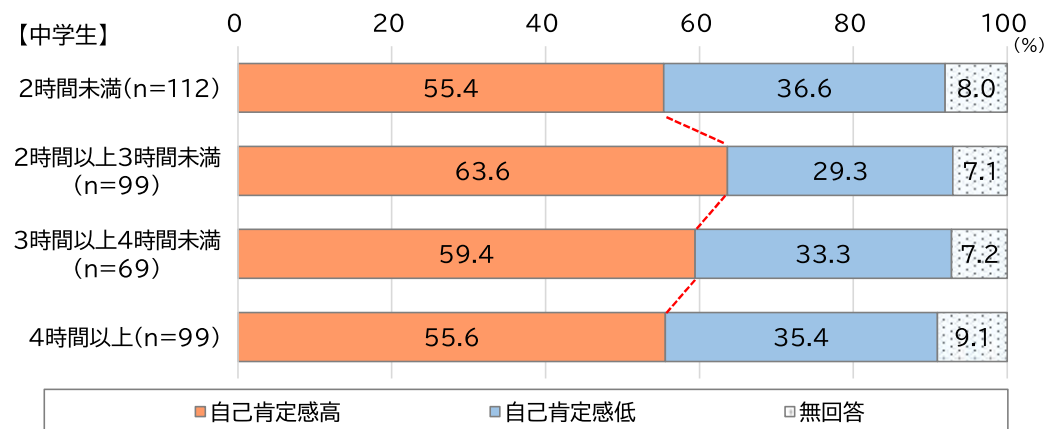
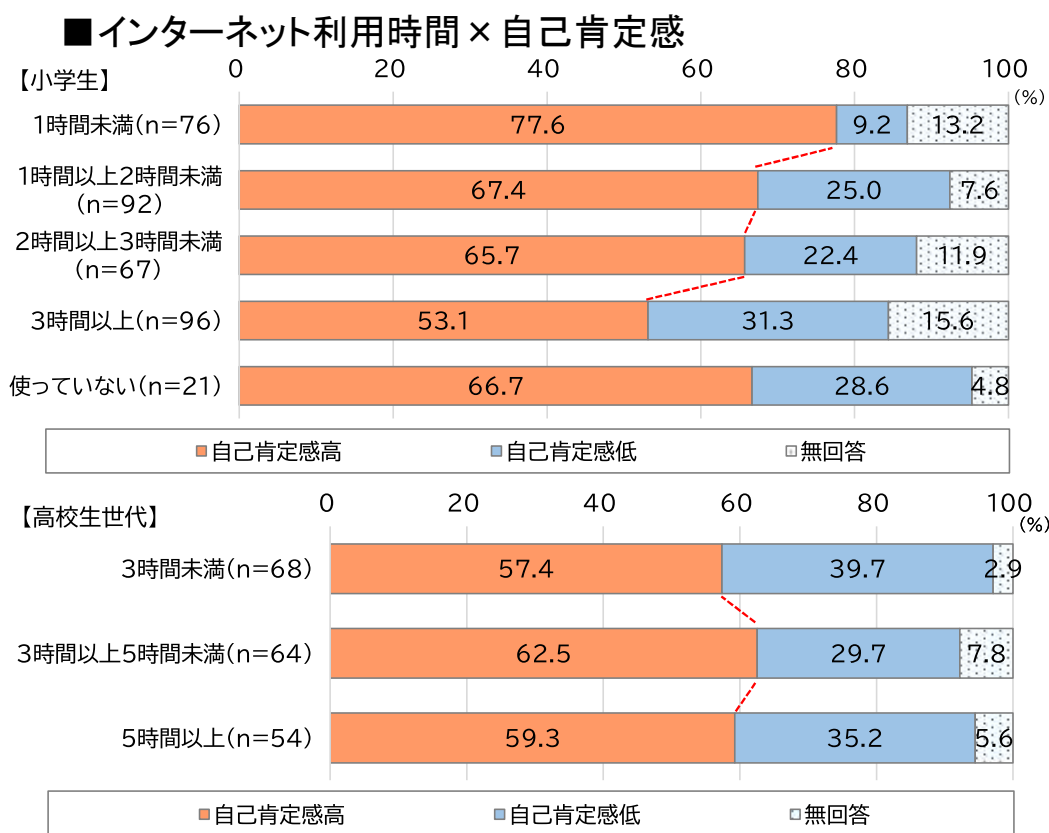
中学生インタビューでの意見(要約)

- 先生が忙しそうで相談しづらい
- 学校はアンケートをとってくれる
- 相談のきっかけづくりが必要

学校にも相談機能はあるものの、相談しやすさの確保が課題です。

3. ②子どもの意識に影響する要因 <インターネット利用>

- 小学生では、利用時間が長いほど自己肯定感が低下する傾向がみられます。
- 中学生・高校生世代でも、一定時間を超えると自己肯定感が低下する傾向がみられます。



中学生インタビューでの意見(要約)

- 他人と自分を比較して落ち込むことがある

長時間利用への対応だけでなく、使い方や心への影響を踏まえた支援が必要です。

3. ③子どもの居場所

<まとめ>

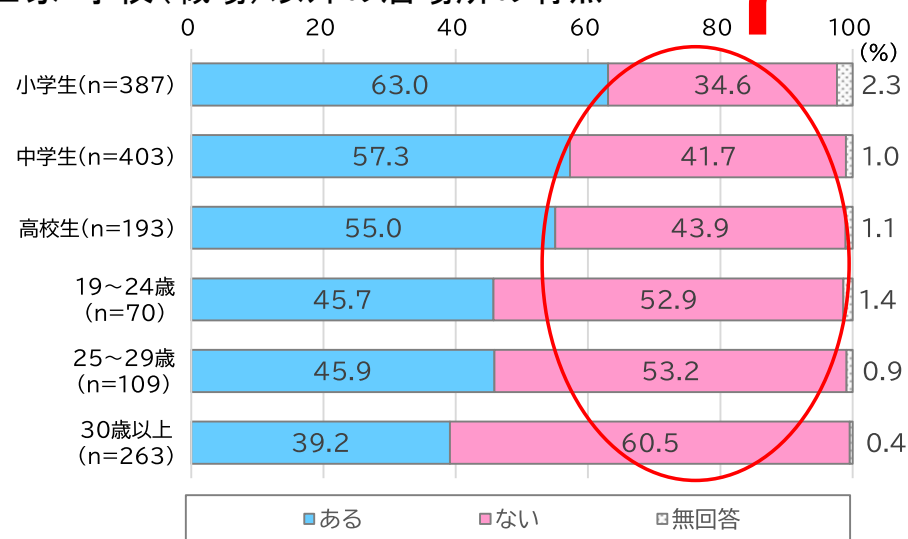
- 高校生世代までの全世代で、友だちと過ごせる居場所へのニーズが高くなっています。
- 高校生では、自習できる静かなスペースのニーズも高くなっています。
- 地区により、居場所の有無や満足度に差がみられます。
- 休日は自宅で過ごす割合が高い一方、屋外活動を行う子どもの方が授業理解が高い傾向がみられます。

子どもの居場所は、世代や地域特性に応じた整備が必要です。

3. ③子どもの居場所 <居場所の有無>

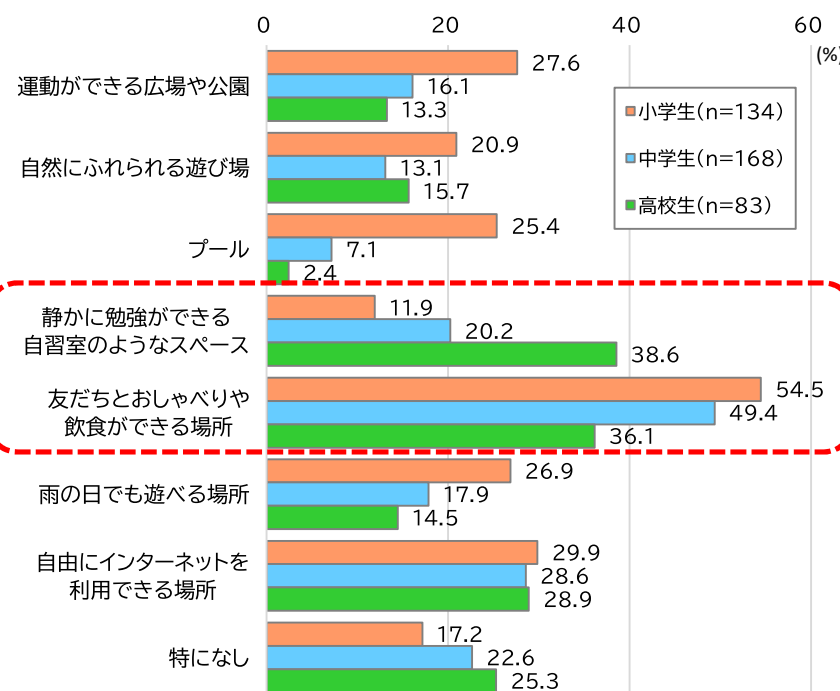
- 家・学校以外の居場所については、年齢が上がるほど「ない」割合が高くなる傾向
- 「ない」と回答した子どもが求める場所は、小・中学生では友だちと過ごせる場所、高校生では静かに勉強できる場所の割合が高くなっています。

■家・学校（職場）以外の居場所の有無



年齢とともに居場所の不足感が高まり、求める機能も変化しています。

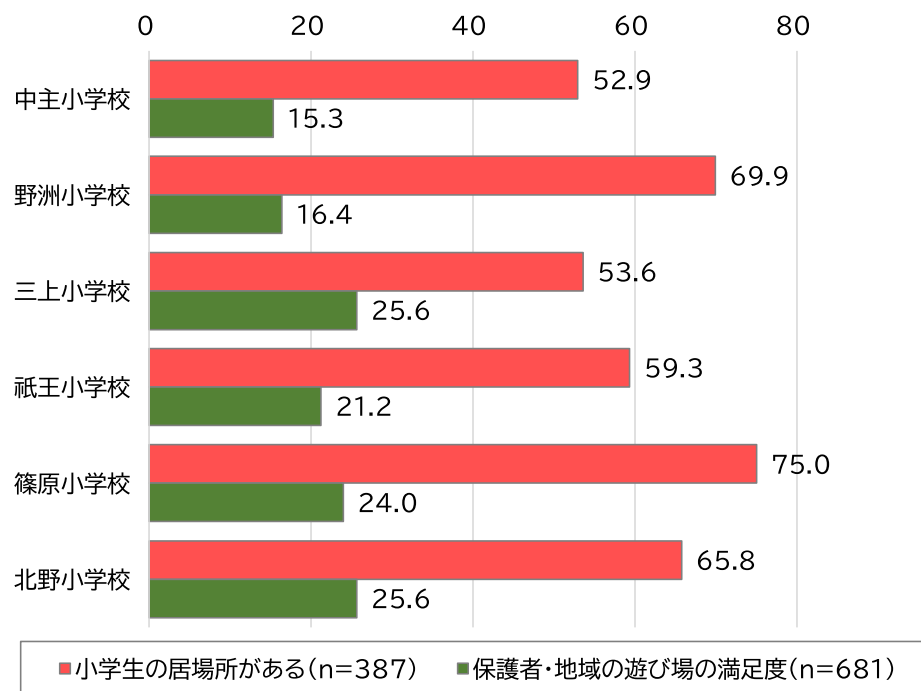
■どんな場所ならいいと思うか（小学生～高校生への設問・抜粋）



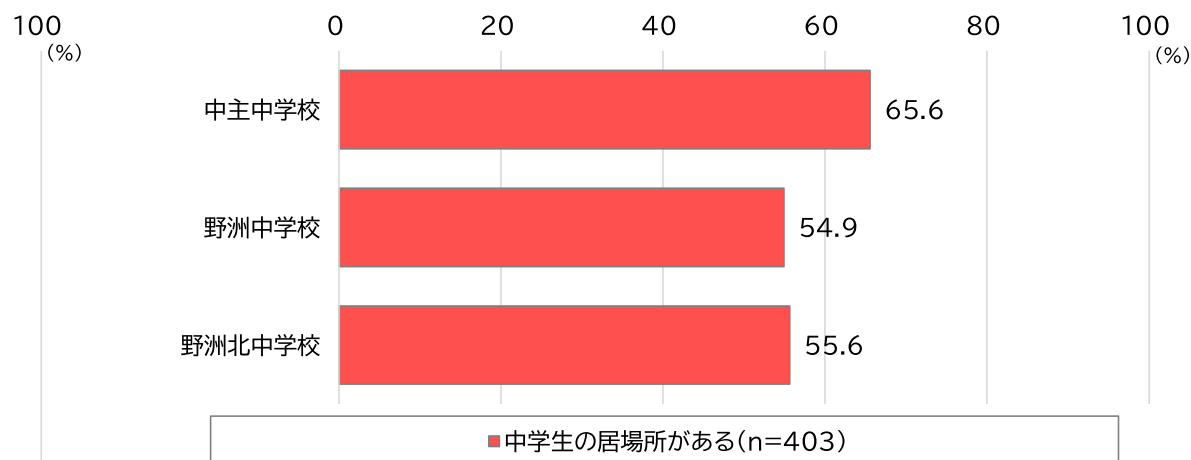
3. ③子どもの居場所 <地区ごとの状況>

- ・ 小・中学生の居場所の有無には、地区ごとに差がみられました。
- ・ 小学校区別では、中主小学校区で小学生の居場所・遊び場満足度が低い状況
- ・ 一方、中学生では中主中学校区で居場所があると答えた割合が比較的高い結果

■小学生の居場所・保護者の遊び場への満足度



■中学生の居場所

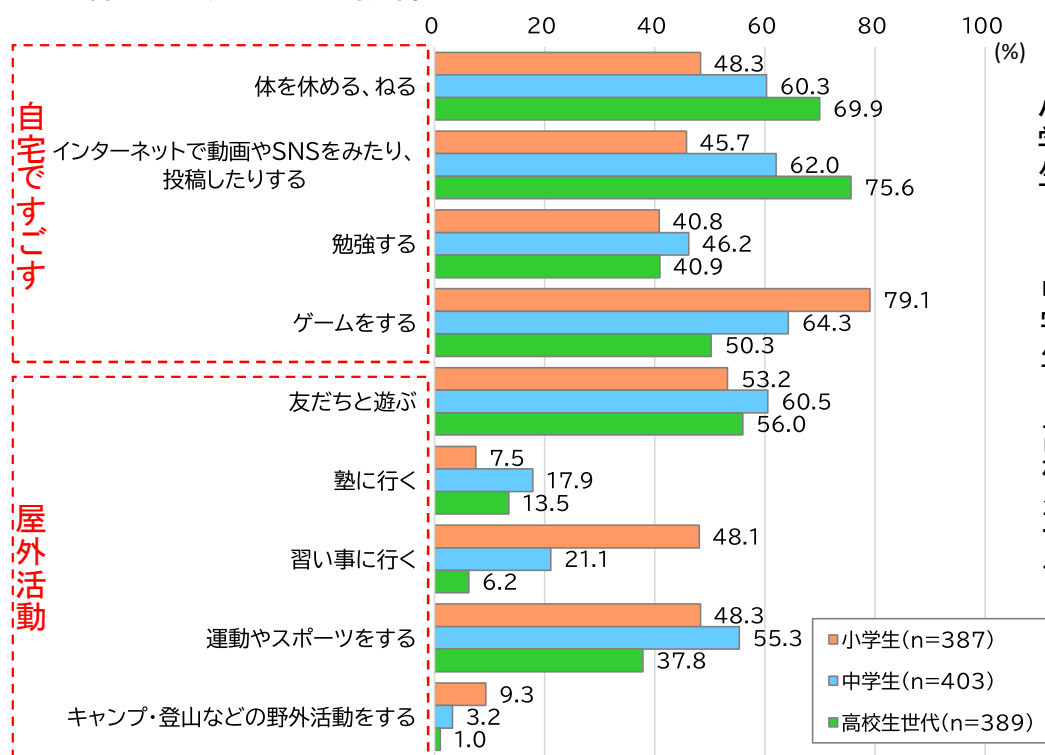


地域差を踏まえ、地区ごとの状況に応じた居場所整備の検討が必要です。

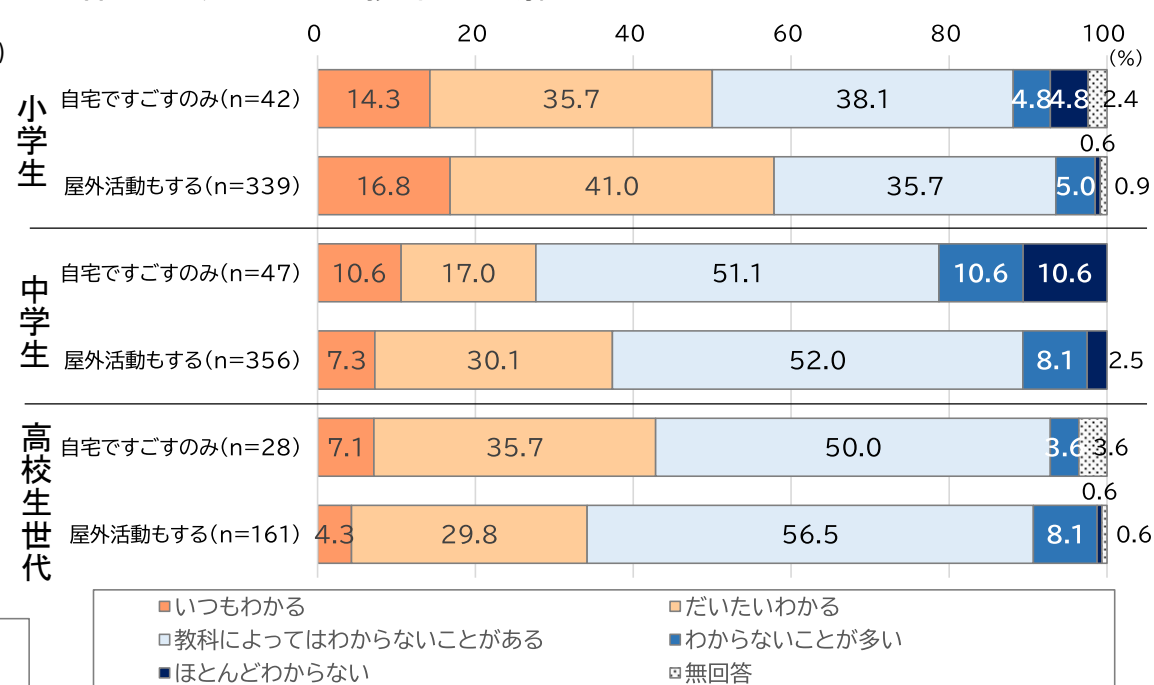
3. ③子どもの居場所 <休日の過ごし方>

- いずれの世代も、休日はゲームやインターネットなど、自宅で過ごす内容が多い
- 小・中学生では、休日に屋外活動も行う子どもの方が、授業理解が高い傾向

■休日の過ごし方(抜粋)



■休日の過ごし方×授業の理解



屋外活動の機会は、学びや生活の充実につながる可能性があります。

3. ④ひきこもりの現状

<まとめ>

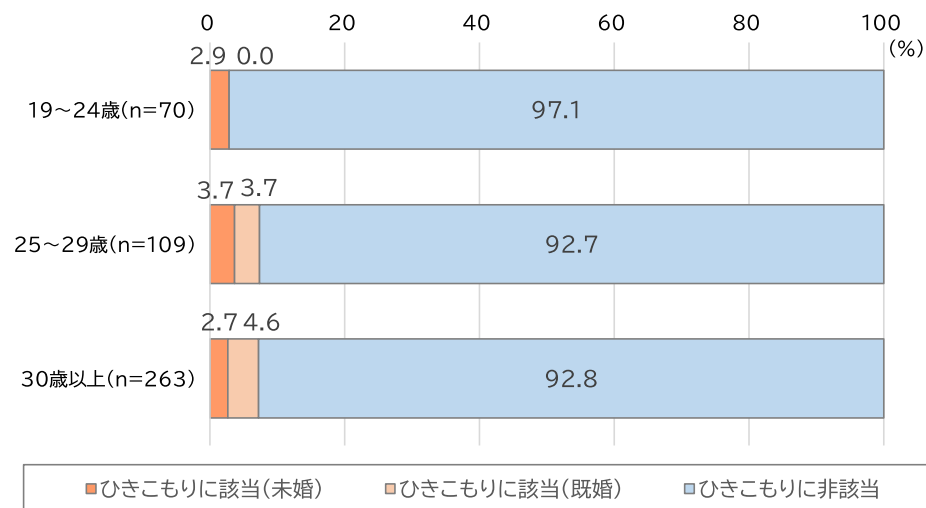
- ひきこもりに該当する人は、成人の各年代で一定数存在しています。
- 既婚者等を除いて整理すると、各年代でおおむね3%程度となっています。
- 該当者は、親と同居している割合が高い状況です。

ひきこもりは一部の年代だけでなく、若者施策全体の課題として捉える必要があります。

3. ④ひきこもりの現状

- 国の定義に基づき整理したところ、各年代で一定数の該当者がみられました。
- 既婚者や産休・育休取得者等を除いて整理すると、いずれの年代もおおむね3%程度
- 未婚の該当者は、親と同居している割合が高い状況でした。

■ひきこもりの状況



ひきこもりの定義

- 社会参加を回避し、原則6か月以上家庭にとどまり続けている状態

本人支援に加え、家族支援や関係機関連携を含めた対応が必要です。

4. 全体まとめと今後の論点

<調査結果のポイント>

- 経済状況は、学習・生活習慣・心理面に幅広く影響
- 子どもの意識には、家庭や周囲の大人との関わりが重要
- 居場所は、世代別・地域別ニーズに応じた整備が必要
- ひきこもりは若者支援全体の課題

<今後の論点>

- 子どもの声を聴く仕組みの充実
- 学習・生活・心理面を含めた総合的支援
- 地域の特性を踏まえた居場所づくり
- 若者支援・相談支援体制の構築

本日のご意見を踏まえ、次回以降、施策体系と計画骨子の検討につなげます。